

地域植物の実態解明の必要性

石 沢 進

私たちの周辺の自然環境について、詳しく実態を調査して記録し、地域的な特色や重要性について指摘しておくことの大切さを改めて強く感ずるこのごろである。

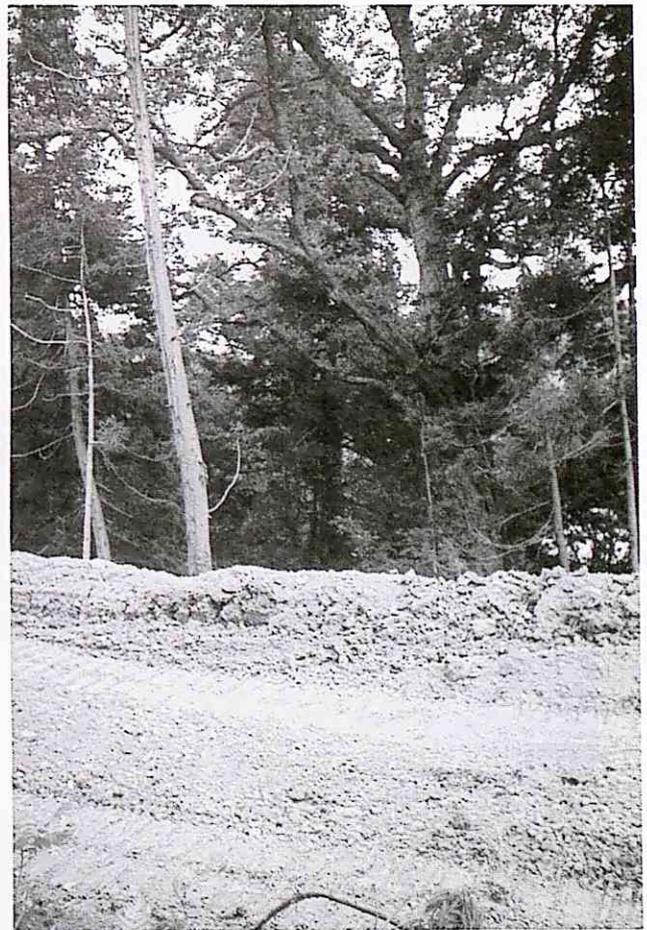
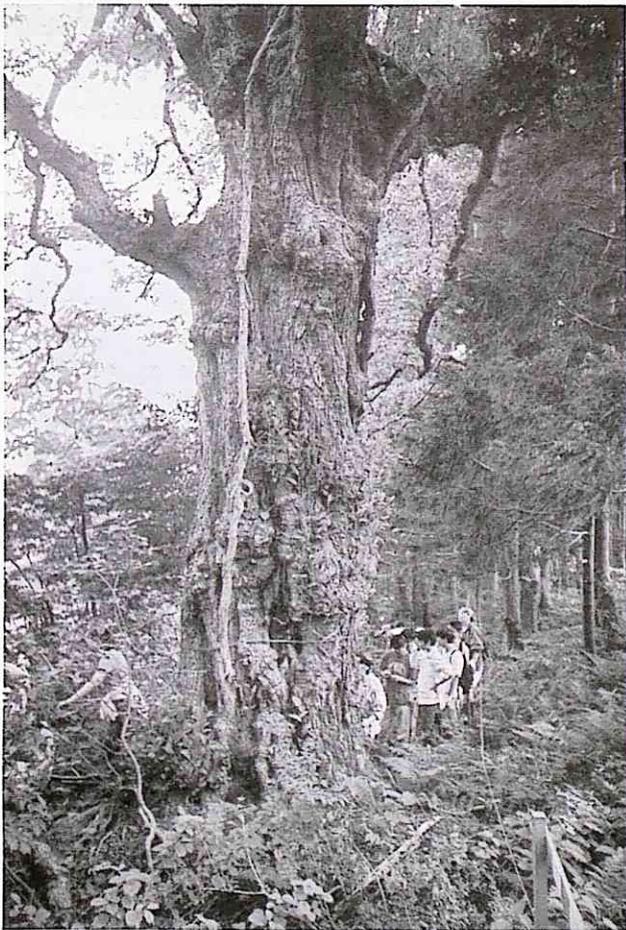
ダムの建設、スキー場・ゴルフ場の増設、道路の拡幅、湖沼の埋立、除草剤の散布など、人による自然環境の改変は、バブルの時代ほどでないにしても多様な形で、各地で急速に進められている。いつのまにかある地域の自然が大きく改変されてしまい、再び訪れた時には、昔の面影もないほどに大きく消失していることに遭遇することもしばしばである。

自然の改変の前に実態の調査を行なって報告書をまとめ、その上で改変の是非を検討する、という社会的な動きもあるが、多くの場合、開発を前提とした調査で、その報告書にはとかく改変後に影響のない方向の資料提示がなされて

おり、結果的には消失してしまう傾向があるように思われてならない。

県内の各地域ごとに自然環境を、少なくとも植物について詳細な調査を行ない、各地域の特色と保全の必要性などをまとめておくことは肝要である。つまり、貴重な自然環境については、改変の計画段階で配慮しなければならない状況に資料を整えておくことが望まれる。それには多くの人々の協力がなければ、実効のあるものにならない。

本誌も20号の発刊を機に、県内で残しておくべき自然について、もっと具体的に取りあげ、実態とその重要性を指摘する内容も掲載したいと考えている。私たちの生活している自然環境に改めて視点に向けて、将来とも残しておく地域、群落、貴重種の生育地などの指摘をお願いしたい。



保谷の池周辺に生えるハンノキの古木と近接の造成工事。
近接して行なわれている造成工事で古木の生存に与える影響が大きいと思われる。
どのような実態調査の結果をもと判断して改変に至ったか疑問が残る。

[北蒲原郡黒川村造成中の胎内ゴルフ場 1996 6 8 撮影]